

# (PPCA040E) 学校危機管理の実践

<http://sakane.g2.xrea.com/mysite1/entrance4.html>

(Webから、授業資料が取得できます。)



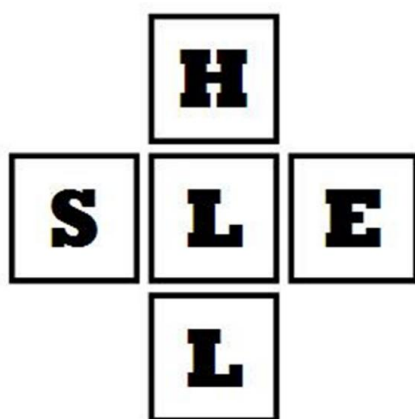
担当教員	阪根 健二		
講義室	地域連携センター-スキル室 (セ 205)	開講学期	前期
曜日・時限	月5 (通学)、月6 (遠隔:オンデマンド併用)	単位区分	選択
授業の目的 及び主旨・到達目標	<p>現代は、学校の管理責任のみならず、教職員個人の責任を問われることが多くなってきた。ここでは、学校現場にある「曖昧さ」を許さない社会状況の変化を再認識する必要があるため、個々の事例を下に、対処法の基本を習得する。特に、学校現場で何が問題なのか、現職・学卒問わず修得できるよう、実際の事例として、大阪教育大学附属池田小学校の児童殺傷事件などを扱い、教師の在り方の本質について考察する。また、事件や事故・災害等への適切な対応を考えるため、様々な事例を扱いながら、教師として必要な危機管理能力を高めることを主眼としている。</p> <p>本授業は、<u>学校の危機的な事態の具体的な事例の分析等を通して、学校危機への事前予防、事後対応の両面について組織的にかつ関係機関等との連携のもとでいかに対応すべきか、その実践的な課題解決策の習得を図ることをねらいとする。</u>そのための分析手法として、「SHELLモデル」(航空機事故・医療などで使われる手法)を活用する。</p> <p>期待される学習効果は、学校危機に関する全般的な知識と現実的課題への理解を深めることにより、多様な危機管理に対応できる実践的指導力が身につくことである。</p>		
授業計画	<p>第 1 回: オリエンテーション, 学校組織の危機管理 (理論)、SHELL モデルによる分析手法について</p> <p>第 2 回: 学校組織の危機管理の実際① (学校が事件や事故に遭遇した時に)</p> <p>第 3 回: 学校組織の危機管理の実際② (事例: 大阪教育大学附属池田小学校児童殺傷事件, 事故対応)</p> <p>第 4 回: 学校危機の事例分析① (実態把握と分析について、事故防止のための教訓を得る方法、CRM とは)</p> <p>第 5 回: 学校危機の事例分析 (SHELL モデルによる検討①)</p> <p>第 6 回: 学校危機の事例分析 (SHELL モデルによる検討②)</p> <p>第 7 回: リスクマネジメントの実際 (いじめ・ネット問題)</p> <p>第 8 回: リスクマネジメントの実際 (防災), まとめ</p> <p>* なお、事件事故の発生などで喫緊の課題が浮上した場合は、シラバスを変更する場合があります。また、遠隔受講は、シラバスを前後して、オンデマンドも活用する。</p>		

履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への積極的な参加を重視するので、各自必ず課題をもって臨むこと</li> <li>・GIGA スクール構想に準じて、ペーパーレス方式で実施する。そのため、パソコンあるいはスマホを持参すること望ましい。希望あれば、紙ベースでも配布する。</li> <li>・遠隔(学校現場等)での授業参加が可能のため、学校実習中(実習時間以外)でも受講できる。(授業時間も月5として、学校の放課後にあたる16時20分から開始としており、聴講も可能である。</li> </ul>
授業時間以外の学修	事前学修として2時間、事後学修としての2時間以上の学修を行ってください。演習課題について、各自で調査・研究・探求する。特に、SHELLモデルの作成を行う。また、NITS(独立行政法人教職員支援機構)のオンライン教材も活用する。
成績評価	提出物(SHELLモデル)、授業への取組状況を踏まえて総合的に評価する。
テキスト・参考文献	<p>授業で用いる資料等は、その都度配布(ネット掲示)もしくは連絡する。</p> <p>参考書・参考資料等 「学校の危機管理 最前線」教育開発研究所(2009)、「学校防災 最前線」教育開発研究所(2012)、「生徒指導のリスクマネジメント」学事出版(2020)</p>
キーワード	(1)学校の危機管理、(2)SHELLモデル、(3)リスクマネジメント、(4)学校事故、(5)コンプライアンス
連絡先・オフィスアワ	<p>オフィスアワーは月曜日及び火曜日の午後、メールで予約確認のこと。</p> <p>sakane@naruto-u.ac.jp(阪根) <a href="http://sakane.g2.xrea.com/index.html">http://sakane.g2.xrea.com/index.html</a></p>

## 1 最終課題の説明

SHELLモデルの作成を行う。

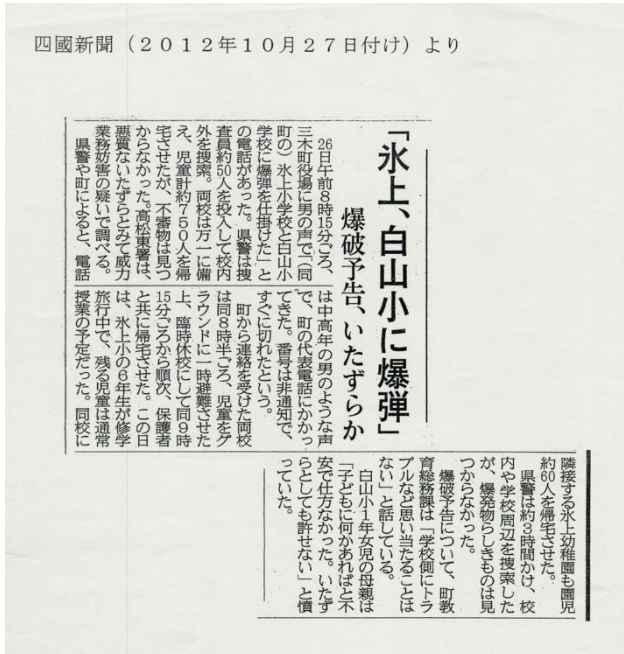
「SHELLモデル」の中心の「L」は自身であり、周囲を取り囲む「S,H,E,L」との関わりを表している。ヒューマンファクターは、人間自身の問題だけでなく、関連する周囲のあらゆる要素との接点において捉える。ここでは、NITS(独立行政法人教職員支援機構)のオンライン教材を活用する。



H = Hardware  
 (ハードウェア)  
 S = Software  
 (ソフトウェア),  
 E = Environment  
 (環境)  
 L = Liveware  
 (人間)

## 2 作成方法

- (1) 新聞記事など（実際の事例でも可）で学校事件や事故、課題を収集する。
- (2) テーマを決めて、SHELL モデルを作る。（テーマは自由）



過去の授業者の資料を参照  
(許諾済)

こうした新聞記事を活用する。

ここから読み取れる流れや対応をまとめる。不明な部分は推測して記入して可。

以下が提出されたもの

SHELL モデルの課題	
教職実践力高度化コース	
【新聞記事見出し】「氷上、白山小に爆弾～爆破予告、いたずらか」（四国新聞 H24.10.27）	
事案の概要（簡単に）	10月26日午前8時15分頃、三木町役場に男の声で「氷上小学校と白山小学校に爆弾を仕掛けた」との電話があった。両校は万一来に備え、児童約750人と、氷上小学校に隣接する氷上幼稚園の園児約60人を帰宅させたが、不審物は見つからなかった。
原因	・悪質ないたずらとみて、威力業務妨害の疑いで調べている。
背景・制約	<ul style="list-style-type: none"> <li>・氷上小学校は、幼稚園が隣接している。</li> <li>・氷上小学校も白山小学校も中規模校であるが、氷上小学校は近年住宅が増え、児童数が急激に増えている。</li> <li>・氷上小学校の校区には、代々住んでいる地元の住民と、新しく入ってきた住民が混在しており、田畑や資材置き場などで子どもが遊んで地域の人に迷惑をかけることが多々ある。</li> <li>・氷上小学校は、6年生が修学旅行中で、残る児童は通常授業の予定だった。白山小学校も6年生が校外学習だった。（両校とも校長不在）</li> <li>・電話は、町の代表電話に番号非通知でかかってきた。</li> <li>・町教委総務課は「学校側にトラブルなど思い当たることはない」と話している。</li> </ul>
S から見た教訓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不審者・火災・地震対策のマニュアルを参考にし、避難指示が出たときの対応を共通理解しておく。</li> <li>・緊急自動車の誘導以外に、保護者への児童引き渡しの誘導も共通理解しておく。</li> <li>・緊急連絡メールシステムへの全家庭の加入をめざす。</li> </ul>
H から見た教訓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・迎えに来た保護者の自動車がかまなく流れるような通路を確保する。</li> <li>・校舎に入れないうちのメール送信の手段を確保しておく。</li> <li>・児童が速やかに校舎から避難できるよう、出口の段差をなくす。</li> </ul>
E から見た教訓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校周辺に住宅が増えてきているので、そちらへの避難勧告や、道路の封鎖なども検討する。</li> <li>・報道関係者が勝手に取材をしたり写真を撮ったりできないように、門扉開閉を徹底する。</li> </ul>
L <他者> から見た教訓 (町教育委員会)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校との連絡の取り方を決め、避難に使う交通手段の確保をする。</li> <li>・避難所への水や食料の差し入れについて、マニュアルを作っておく。</li> <li>・不審な電話がかかってきたときの対応について共通理解しておく。</li> <li>・学校周辺の地域住民への避難勧告の方法を検討する。</li> <li>・報道機関への対応の窓口を明確にし、一本化する。</li> </ul>
L <当事者> から見た教訓 (学校)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の共有化を図り、避難する際の対応を全校で徹底する。</li> <li>・保護者が迎えに来られない児童の避難方法を決めておく。</li> <li>・連絡が取れない家庭への対応について共通理解しておく。</li> <li>・児童の心のケア（不安感などへの対応）を十分に行う。</li> <li>・いたずら電話など、人の迷惑になる行動についての指導を徹底する。</li> <li>・報道機関への対応の窓口を明確にし、一本化する。</li> </ul>

## 課題例

これまでの学校事故や事件を SHELL モデルで分析します。

SHELL モデルの作成（新聞記事の事件や事故でも、実際にあった事案でも構いません。なお、講義資料内に参考例があります。）

【タイトル】新聞の見出しなど	
事案の概要	簡単にまとめる
主たる原因	主たる原因を推測する
背景・制約	実際の学校現場を考え、どんな背景があったか、対応に制約されたものはないかを推測する
Sから見た教訓	ソフトウェアから（例えば、マニュアルなど）
Hから見た教訓	ハードから（例えば、施設など）
Eから見た教訓	環境から（例えば、職員室の雰囲気とか学校周辺など）
L（他者）から見た教訓	周囲の人的面から（例えば、上司・同僚や教委、地域など）
L（当事者）から見た教訓	事件や事故の当事者（例えば、怠慢やヒューマンエラーなど）

（注）A4 両面で作成のこと（1ないし2枚で作成）